

文化財保護センターだより

第4号

平成4年7月1日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒501-02 岐阜県本巣郡穂積町牛牧宮下395 TEL (FAX) 05832-7-8980

●もくじ	発掘状況……………4
後世に……………1	城あとと見学について……………7
埋蔵文化財調査への願い……………2	センターだより……………8
平成4年度役員名簿・事業計画 3	整理作業に参加して(その3)…8



後 世 に

(財) 岐阜県文化財保護センター
理事長 吉田 豊

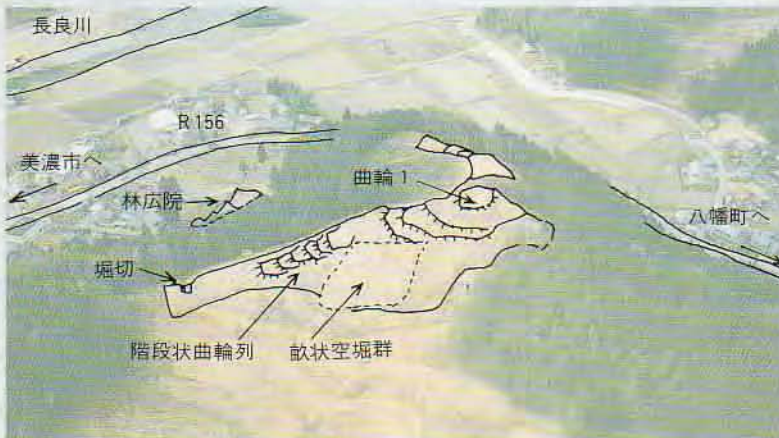


かつて岐阜県教育委員会が、5年計画で「不破関跡」の発掘調査を行ったとき、私はそのしごとの直接の担当である文化課長でありました。種々の土器や日本最古の貨幣といわれる「和銅開珎」等の出土から、古代史があきらかになっていくということに対して、大きな喜びをもったことは当然であります。同時に、この調査に当初は必ずしも賛成でなかった地元の方々との合意を得るためのしごとに苦しんだことも、またきのうのこのように思い出されます。

調査の結果、「不破関跡」が広範囲にわたって国の「史跡」に指定されることは必然でした。そうなれば、その土地を自分の土地でありながら自由に使うことができなくなるという不安からの地元の方々の反対は、文化財保護の基本にかかわることであることが、よく理解できるがゆえに、私も苦しい思いをしました。

今、私たちは水底に消えいく徳山をはじめとして、数カ所で発掘調査を行っています。それはそれぞれに遠い歴史との対話であります。

いくつかの国で、自費を投じて遺跡・文化財の調査にあたっておられる平山郁夫画伯の「美しく老いて、失われいこうとする文化財を後世に伝えることが、日本人としての私の夢・義務」ということばに、常に私は励まされています。



鶴尾山城跡全景

郡上郡美並村にある戦国時代の山城跡です。

主郭と14の曲輪をもち、東南斜面には8本の畝状空堀群が造られています。曲輪には礎石が見つかり、礎石建物が建てられていたようです。

埋蔵文化財調査への願い



高山市教育長

石原 哲 彌

長い間の念願でありました岐阜県文化財保護センターが、昨年4月に発足されましたことを、心から嬉しくお祝い申し上げます。

2年目を迎えて陣容もさらに充実し、着々と地歩を固めて調査研究が進められていることと存じます。

—昨年秋に大野郡宮村で開催されました「位山シンポジウム」の折、梶原知事さんのお話の中に「縄文ルネサンス」という新しいお言葉があり、大変印象的に響きました。

梅原猛先生の「森の文化論」も拝聴しましたが、お二人の根底に流れる理念に共通性があり、深い知的興奮を覚えました。

豊かな自然と共生した縄文人の文化再生は、現代の私達にとって心の糧となり、新しい思潮の方向を示唆するものと思います。

飛驒地方は「縄文の宝庫」とも呼ばれています。戦後の発掘調査報告書も40冊を越えており、縄文時代住居跡が約300戸、埋蔵60個体も含めて復元土器が約400個となっています。

出土した土器片や石器の量は膨大なもので、縄文人の生活や心を知る手掛かりが蓄積されてきました。

こうした成果は今回の県博物館特別展「飛驒のあけぼの」に集約され、「人が動く、モノが動く」というテーマは、東日本と西日本の文化の接点となり、東海と北陸を結ぶ回廊となっている飛驒地域の特色が浮き彫りにされました。

さて、飛驒に住んで先史時代の人々の暮ら

しに関心を持つ一人として、口頃思っている願いを率直に述べさせて戴きます。

1. 発掘調査研究の拠点として施設・設備の充実を期待します。他県より設置が遅れた反面、他県より優れた殿堂にして戴きたいと願うものです。
 2. 発掘調査研究を担当される人材の養成が大きな課題と思います。長期的な展望で学芸員も含めて陣容の拡充をお願いします。「きつい、きたない、きけん」という若い人達にある風潮の中、人材の確保が大変だと思います。調査員の少ないことが市町村の大きな悩みでもあります。センターが文化財保護の拠点となり、若い調査員の層が厚くなるのが、将来の岐阜県にとっての課題です。本人の熱意と直接体験によって人材は育ちます。市町村の悩みにも対応してください。また民間の研究者とのパイプも大きくして戴きたい。
 3. 県下の巨大大事業に伴う調査研究で多忙なことと思います。飛驒地方でも中部縦貫道の杭打式が6月10日に実施され、いよいよ巨大大事業が動き始めました。予定路線には遺跡も分布しています。21世紀にかけて早期実現の要望に対し、事前調査がその前提となります。センターの飛驒分室の充実をお願いします。
 4. 豊かな自然と優れた縄文文化に恵まれている飛驒地方ですが、県立の文化施設がありません、調査研究、保存、展示、学習の殿堂の設置が大きな夢であります。「飛驒は一つ」という広域の立場で、市町村も一層の努力が必要です。夢おこしの一つとして提言いたします。
- 終りに調査研究に日夜頑張っておられる所員の皆様の御健闘を心からお祈り致します。

●平成4年度役員名簿

会 長	梶原 拓(県知事)
副 会 長	沢田 確(県教育長)
理 事 長	吉田 豊
専務理事	山崎 春夫
理 事	蒔田 浩(岐阜県市長会長)
理 事	中井 勉(岐阜県町村長会長)
理 事	浅野 勇(岐阜県都市教育長会長)
理 事	西脇 成紀(岐阜県町村教育長会長)
理 事	大野 政雄(岐阜県文化財保護審議会長)
理 事	桑田 宜典(県総務部長)
理 事	打田 穂積(県農政部長)
理 事	山岸 俊之(県土木部長)
理 事	岩垣 儀一(県開発事業局長)
理 事	高井 正文(県教育次長)
理 事	篠田 幸男(岐阜県博物館長)
監 事	永倉 八郎(県出納長)
監 事	広瀬 寛(県教委管理部長)

●発掘調査地



●平成4年度事業計画

事業名	起業者名	調査地	遺跡名	時代等
徳山ダム水没地区内埋蔵文化財緊急発掘調査	水資源開発公団	揖斐郡藤橋村	上原遺跡	縄文時代の集落跡
報告書作成			山手宮前遺跡 いんべ遺跡 上開田村平遺跡	包蔵地 " "
東海北陸自動車道予定地内(美並～白鳥間)埋蔵文化財緊急発掘調査	日本道路公団	郡上郡八幡町	西乙原遺跡	包蔵地
報告書作成			郡上郡美並村	赤谷遺跡 勝更遺跡 深戸遺跡 鶴尾山城跡
東海環状自動車道予定地内埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	建設省	美濃加茂市	蜂屋遺跡群	包蔵地
国道41号美濃加茂バイパス予定地内埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	建設省	美濃加茂市	尾崎遺跡	弥生・古墳・奈良時代の集落跡
国道41号改良工事予定地内埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	建設省	大野郡久々野町	藤原遺跡	縄文時代の集落跡
多治見市喜多町宅地造成工事予定地内埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	住宅都市整備公団	多治見市	池田1号古墳 喜多町地内古窯跡	古墳時代 古代中世の窯
国道248号バイパス予定地内埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	岐阜県	多治見市	古窯跡 元三ヶ根古墳群	古代中世の窯 古墳時代
県道国府見座線新設改良工事予定地内埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	岐阜県	吉城郡国府町	深沼遺跡	古代・中世の水田跡

発掘状況

■県下4遺跡で調査始め式実施

当センターでは、本年度の発掘調査を始めるにあたり、調査の安全と成功を願って、関係機関の出席をいただき、以下の4遺跡で調査始め式を実施しました。

あげはら 上原遺跡 (揖斐郡藤橋村徳山)	5月7日
にしおつぼら 西乙原遺跡 (郡上郡八幡町)	5月8日
おごき 尾崎遺跡 (美濃加茂市)	5月14日
あじわら 藤原遺跡 (大野郡久々野町)	5月21日



藤原遺跡での調査始め式

■藤原遺跡発掘調査

藤原遺跡は、大野郡久々野町長淀（一部分は渚地区）にあります。久々野町南部の飛騨川左岸の段丘に位置し、JR高山本線と飛騨川に挟まれた所です。この遺跡は、一般国道41号線の長淀局部改良工事に伴う長淀1号橋建設に際して、縄文土器や石器が採集され確認された遺跡です。

今回の発掘調査は、同地区での道路改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査です。久々野町での発掘調査は、昭和48年より始まり縄文時代の代表的遺跡として現在国指定史跡と

して保存公開されている、堂之上遺跡どうのぞら以来の実施となり、各方面より注目されています。

現在までの調査では、縄文時代早期～後期にかけての土器片や、石鍬・石錘・打製石斧などの石器類が見つっていますが、詳細は明らかではありません。今後、遺構の検出および出土遺物の検討によって、遺跡の性格を明らかにしたいと考えています。

■徳山埋蔵文化財発掘調査

徳山ダム建設に伴う全村水没地区のまとまった発掘調査として、全国的にも注目されている揖斐川最上流に位置する揖斐郡藤橋村徳山地区（旧徳山村）の発掘調査が、今年も始まりました。昭和61年度より岐阜県教育委員会により始められた同地区の発掘調査は、6年間に12遺跡で実施されました。

昨年度より担当することとなった当センターでは、今年度は前年度よりの継続調査の上原遺跡と、新たに上開田村平遺跡・山手宮前遺跡・いんべ遺跡（A地点）の4遺跡（合計面積5,500㎡）で調査を開始しました。



上原遺跡発掘風景

▶上原遺跡

この遺跡は、旧本郷集落から揖斐川本流を約1km遡った広い右岸段丘上に立地しています。遺跡はこの徳山で最も広い段丘全域に及び、16,846㎡に及びます。前年までの調査によれば、縄文時代前期～晩期の土器・石器類を大量に検出し、住居跡1基、晩期の土器棺墓4基、配石墓1基と配石遺構、土壇を多数確認しています。本年度は遺構の広がりを確認しながら、縄文時代に東海・北陸・関東・関西の接点であった「徳山の縄文遺跡」の性格解明に努めていきたいと考えています。

▶上開田村平遺跡



旧上開田集落跡遠景

旧上開田集落は、揖斐川本流と西谷川合流地点の右岸段丘上にあり、遺跡は集落の北端にあたります。これまでに石鏃・打製石斧・切目石錘・スクレイパー等の石器類が採集されています。本年度の調査では、縄文時代中期の土器を中心に遺物が出土しています。

旧上開田集落より西谷川を遡る0.5km上流には、平成元年より2年間の調査を実施した追分遺跡があり、縄文時代後期～晩期の土器・石器が出土しています。接近するこの追分遺

跡との関連性も確認したいと考えています。

■尾崎遺跡発掘調査

尾崎遺跡の調査は、一般国道41号美濃加茂バイパス改良工事に伴い実施することになりました。この遺跡は、美濃加茂市蜂屋町上蜂屋にあり、美濃加茂市の市街地を一望できる丘陵の先端部に位置しています。

美濃加茂市では、今までに数多くの遺跡の発掘調査が実施されています。神明遺跡・牧野小山遺跡・南野遺跡・今遺跡等です。しかしこれらの多くの遺跡は、美濃加茂盆地と言われる低地の河岸段丘上に立地しており尾崎遺跡とは性格を異にします。

同遺跡は加茂神社の南端にありますが、境内には古墳が存在した記録もあり、一部が掘り削られ、須恵器が出土しています。また今回の調査に先立つ美濃加茂市教育委員会の試掘調査によれば、スクレイパー・フレイク・須恵器・山茶碗等が出土しており、かなり良好な状態で遺跡が残ると報告されています。

現在までの調査で、縄文土器・弥生土器・須恵器等が出土し、これらの時期に伴うと考えられる住居跡プランも検出し始めています。



尾崎遺跡で検出された住居跡プラン

■東海北陸自動車道 埋蔵文化財発掘調査

東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査は、昨年度より当センターが担当することになり、郡上郡美並村の深戸遺跡宮下遺跡と鶴尾山城跡の発掘調査を実施しました。深戸遺跡では中近世の屋敷跡1基と炭焼き窯跡3基が確認でき、宮下遺跡では縄文時代後期～晩期の土器・石器が出土し、炉跡2基が検出されました。

本年度は、郡上郡八幡町内の西乙原遺跡より調査を開始し、同町内の赤谷遺跡と八幡インターチェンジ建設予定地の勝更遺跡の発掘調査を予定しています。

西乙原遺跡は、八幡町西乙原集落西端の長良川本流右岸の上位段丘に立地しています。

調査地は山麓の傾斜地に広がり、茶畑に利用されていました。発掘調査地周辺では、縄文土器片・安山岩やチャートの剝片と多数の打製石斧が採集されています。

現在までの発掘調査では打製石斧やフレーク等の石器類が出土しています。遺構は確認されていませんが、今後発掘区を拡げ調査を進める予定です。



西乙原遺跡発掘風景

発掘を終えて

■鶴尾山城跡発掘調査概要

所在地 郡上郡美並村大字白山字上野
発掘調査期間 平成3年10月4日

～平成4年3月4日

調査面積 3,750㎡

遺跡の立地 長良川左岸の標高231mの独立した山

時代 戦国時代

1. 遺跡の概要

鶴尾山城は、文献史料によれば、八幡東殿山城主東氏の支族であった遠藤盛数が、天文21年（1552年）に郡上南部を制圧するために築いた城とされています。その後、盛数が東氏を滅ぼし八幡城を築くと、その支城として

の役割を果たしたようです。廃城は、「元和の一国一城令」（1615年）の頃です。

城は、山頂部に二段の主郭を設け、西隅に虎口が、北側に縦土塁が延びています。主郭から延びる三方の尾根には、南に9つ・東に2つ・西に3つの階郭式の曲輪が造られ、東と西の尾根には堀切が設けられています。南東斜面には、8本の畝状空堀群が造られていました。その上の曲輪3には方向性のある礎石が見つかっており、櫓のような礎石建物が建ち、城の防衛機能を高めていたと考えられます。居館の位置は、現在鶴尾山の麓にある林広院の境内が推定されます。城の入り口は南の堀切と西の曲輪13に至る二ヶ所です。

2. 主な遺構

主郭……二段に分かれた主郭部は、上段西側に升形虎口を造り、虎口から下の段に至る通路は石が敷かれています。上段から2基の集石遺構が検出され投石用の集石と考えられます。

畝状空堀群……主郭の東南斜面にある8本の畝状空堀は、外側の2本は比高差20mあり曲輪3とつながり、内側6本は曲輪3の下にテラス状に造られた曲輪から下に延びます。

曲輪11……西尾根の曲輪11は、東西30m・南北20mの曲輪で、平坦部から20個の礎石が検出し、数棟の建物が建てられていたと考えられます。西隅には土塁も設けられています。

3. 出土遺物について

遺物は、主として曲輪1,2,11の平坦部や斜面に出土しましたが、遺存状態は悪く完形となるものは小坏1点のみでした。出土遺物の内訳は、摺鉢・天目茶碗・緑釉皿・菊皿・四耳壺・土錘・古銭・砥石・德利・山茶碗・土

師質土器等で、日常生活に使われた食膳具や調理具が多くあります。この他に中国の明代に生産された白磁皿・染め付け皿も出土しています。

鶴尾山城跡



註：数字は各曲輪の番号を示す。

城あと見学について

わたしは、美並村に三つのお城があることは知っていたんだけど、まさかあんなところにあったなんて思いませんでした。てっぺんから、学校とかいろんな所が見えました。川原石の上に柱を建てて小屋のような物をつくっていたと聞いたので、いろいろ頭をつかって建てたのかな？と思いました。



わたしは、お城といわれたら、新しく立て直した八幡城のような物と思ってい

美並村立三城小学校 六年生

たけれどそんないい城ばかりじゃなくて、小屋のような古っぽいお城もあるんだなと思いました。調査の人達はこまかい昔のお金や、かけたりしているお皿などでも見つけたのですごいと思いました。昔のお金も時代げきで見るとお金と似ていました。でも手でさわったら今にもくずれそうで、そうとう古い物だったんだと思いました。

わたしは、昔の物やお金が入っているような土をほりかえしてしまうと、もったいないと思いました。だから高速道路がこないうちに、なるべくたくさんほりかえしてもらいたいです。これからもがんばってください。

セ ン タ ー だ よ り

● 整理作業に参加して（その3）

前回は「土器や石器に直接手を触れて感激した話」でしたが、今回は「作業についての感想」などを聞きました。

「夏休みに子供が作業場を見学に来て“お母さんはすごい仕事をしているね”と言ってくれました。子供のためにもこの仕事を長く続けたいと思っています。」

「子供は古墳に興味を持っており、近くの古墳で拾った土器片を大切にしていたことが判り感激しました。この仕事を通じて子供との良きコミュニケーションを持てればと思っています。」

「家族は、“お母さんはやりたい仕事をして生き生きしている”と言ってくれます。」

「この仕事に参加してからは、遺跡のことなどの新聞記事を熱心に読むようになりました。」

「歴史資料館などにも関心が深まり、よく訪れるようになりました。」

「土器棺は何千年を経てからでも発掘され元の形に復元されて後世に残されるが、これを作った人間は影も形もなくなります。人生のはかなさを感じました。」



整理作業風景

● 日誌

- 4.3.25 第4回理事会開催
- 4.1 吉田豊理事長 就任
- 5.7 藤橋村（上原上開田遺跡等）発掘調査始め式開催
- 8 八幡町（西乙原赤谷遺跡等）発掘調査始め式開催
- 14 美濃加茂市（尾崎遺跡等）発掘調査始め式開催
- 21 久々野町（藤原遺跡）発掘調査始め式開催

■ 編集後記

石原教育長さんには、お忙しいところ快く原稿をお寄せいただき感謝申し上げます。昨年9月の発掘体験学習に参加した大勢の小学生の中から渡辺さんの感想文を載せました。未来を

背負うこれからの子供たちを通じて、先人が残した貴重な文化財を大切に保護し、後世に引継いでいくためにもセンターの役割は重要であります。

新年度からは知事さんを会長に、教育長さんを副会長に、吉田元教育長を理事長に迎えるとともに、職員も23名と増員になり、組織の拡充が図られました。役職員一同気持も新たに設立2年目を頑張っています。みなさんのご意見をお待ちしております。

